



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

「学ぶ楽しさ日本一」で作る
子どもたちの未来

教育は地域の子どもの未来に大きな影響を与えるとともに、地域の魅力を左右する重要な政策です。本市では4年前から「学ぶ楽しさ日本一」をスローガンに、教師の皆さまの絶大なご協力をいただきながら、教育環境整備に力を注いでいます。現在の取り組みを4点ご紹介したいと思います。

一つ目は、本市が世界に誇る伝統芸能「淡路人形浄瑠璃」を題材にした総合学習（コアカリキュラム）です。人形に触れ、伝統を守り表現する人から直接学び、技能・歴史・地域との関わりなどを9年間かけ多面的に探究することにより、①互いの強み弱みを認め合い、チームとして高め合う②周りの状況から読み取ったり、自ら収集したりした情報を処理し、活用する③課題を明確に把握し、見通しを持って主体的に取り組む力を身に付けようという目標をもって取り組んでいます。

二つ目は、国の「GIGA スクール構想」に基づいた、子どもたちの個性に合わせた教育の実現への取り組みです。昨年度から、児童生徒一人ひとりにタブレット端末を配備し、探究的学習や協働学習だけでなく、子どもたちが授業の主役になって映像を制作し発表するなど、機能をフル活用しています。中学3年生では、人形浄瑠璃のPR動画を作成し、英

語で世界に発信することを目標にしています。

三つ目は、放課後に遊びを通じた多種多様な体験プログラムを提供する「アフタースクール事業」です。地域の人たちに趣味や特技を生かして「まちの先生」になっていただいたり、外部講師や市内企業等と連携したりしながら、子どもたちの自主性、積極性、コミュニケーション力などを育み、なりたい自分を見つけることができる「子どもの居場所づくり」をめざしています（現在は5校区で実施、2校区で準備中）。また、著名なスポーツ選手や文化人を講師として、子どもたちがスポーツや芸術の魅力や楽しさ、努力の意味や仲間の大切さを感じとり、大きな夢を持って豊かな人生を描いてほしいとの願いを込めて、「夢プロジェクト」も実施しています。

四つ目は、人としての生き方・あり方を考える防災教育の推進です。小中学生が防災ジュニアリーダーをめざし、実地学習に取り組んでおり、小学5年生の自然学校でも、安全の確保の仕方を自ら工夫するなど、子どもたちが将来にわたって主体的に地域の防災に関わり、安心・安全なまちづくりに貢献しようとする意識の醸成を図ります。

次の時代を担い、これからのまちをつくる存在である子どもたち。将来を予測することが非常に難しい新時代を生きるためには、自ら学び、考え、行動し続ける習慣を身につけることが不可欠です。学校教育が準備すべきことを明確にし、地域の皆さまにもご協力をいただきながら、一歩先んじた教育環境づくりに引き続き取り組んでまいります。

感染症対策にご協力をお願いします

- ・3密を避け、人と接する場合はマスクを着用する
- ・手洗いや手指の消毒を励行する
- ・室内や移動の車内などでは換気を十分に行う

受賞おめでとう

(順不同)

- ◆全国人権擁護委員連合会長表彰
芝 壽郎 さん(福良)
- ◆兵庫県自治賞(福祉功労)
濱口 文子 さん(南あわじ市婦人共励会長/松帆)
- ◆兵庫県こうのとり賞
榎本 澄枝 さん(南あわじ市更生保護女性会/神代)
福岡 妙子 さん(南あわじ市消費者協会/倭文)



春の叙勲 旭日双光章
元県小型船舶工業会副会長
増井 健一 さん(福良)

増井さんは、49年間にわたり造船業の振興に尽力されています。

23歳で社長に就任され、単身で海外に渡り商社を通さず直接受注する先駆的な市場開拓に成功するなど、経営者として厳しい造船業界を行動力と画期的なアイデアで切り拓いてこられました。「叙勲を励みに、少しでも社会に恩返しができるようより一層奮励したい」と受章の喜びを話されました。



阿万地区の祭りでの、だんじりを曳行する住民ら



カラー舗装された横断歩道を渡って登校する市小の児童ら

子どもたちの安全な通学のため
横断歩道をカラー舗装

4月27日、潮美台と市の市道に、路面を白とグリーンにカラー舗装した横断歩道を整備しました。いずれも信号機がなく、通行量が多い場所で、通学路となっています。ドライバーに目立つようすることで横断歩道前での減速を促し、子どもたちの安全につなげます。潮美台で整備した横断歩道は、南淡中と北阿万小の

通学路となっている三差路の2カ所。また、市は市小の通学路の1カ所です。市小の山下百合香校長は「ドライバーの人には、子どもたちが安全に通学できるように心掛けてほしい」と話しました。

なお、市では、通学路上の既存横断歩道についても検討を進め、順次カラー舗装を行う予定です。

地域コミュニティ強化へ
地域行事の再開を応援

南あわじ市では、コロナ禍で中止を余儀なくされてきた地域の祭りやスポーツ交流事業など、地域の住民交流事業の再開を応援するため「地域行事等再開応援事業補助金」を令和4年度に設けました。対象団体は自治会や地域づくり協議会。地域ぐるみの行事の再開を支援することで、コロナ禍で弱体化が懸念される地域コミュニティの再強化をめざします。

阿万地区では4月17日にこの制度を活用して、亀岡八幡宮で3年ぶりに春祭りが開かれました。みこし1基とだんじり3台がまちを勇壮に練り歩き、沿道では多くの住民が笑顔で見守っていました。



「地方自治と第1次産業」
に関して守本市長が講演

4月19日、農学部1年生を対象にした必修科目「グローバルスタディーズ入門」で守本市長が登壇しました。「地方自治と第1次産業」を演題に、地方の現状・今後の展望などを講演いただきました。また、「仕事」を話題にあげ、仕事の定義・責任に関する内容について具体的に説明があったことで、社会に出る前段階



守本市長による講演の様子

の学生にとっては将来を意識する大変貴重な90分間となりました。

講演は学生に質問を促す形で進められ、双方向でのコミュニケーションがあり、活気のある空間が生まれていました。守本市長をはじめ、市職員の方々には大変お世話になりました。今後とも市民の皆さまには学生のご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

同大南あわじ志知キャンパス事務室 ☎ 42-4700